

関東・東北豪雨を受けた「避難を促す緊急行動」

出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を首長と確認

— 琵琶湖河川事務所 —

この度の平成27年9月関東・東北豪雨により、全国各地において浸水被害等が発生しており、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市では、約1万1千棟が浸水するなど甚大な被害が生じました。今回の水害を受け、

- [1]堤防決壊に伴う氾濫流による家屋の倒壊・流失
- [2]地方公共団体による避難判断、広域避難
- [3]避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生

の3点を対処すべき主な課題と捉え、全国の市町村長や堤防沿いにお住まいの住民の方々の不安や懸念に応えるための「避難を促す緊急行動」を実施することとし、その一環として洪水予報、ホットラインなど出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を**草津市長、栗東市長、湖南市長**と確認しました。

引き続き滋賀県内関係市へ順次説明を実施していきます。

概要

対象河川：淀川水系野洲川

- 日時：平成27年11月30日（月）10：00～11：30
- 場所：草津市役所 庁議室
- 参加者：草津市長、栗東市長、滋賀県、国土地理院、気象庁、滋賀国道事務所、琵琶湖河川事務所、

- 日時：平成27年12月3日（木）10：00～11：30
- 場所：湖南市共同福祉施設 大会議室
- 参加者：湖南市長、滋賀県、国土地理院、気象庁、滋賀国道事務所、琵琶湖河川事務所、



【確認内容】

- ・関東・東北豪雨に係る被害及び復旧状況
- ・基準水位観測所設定水位
- ・ホットライン（事務所長から市町村長へ直接連絡）での情報提供内容
- ・重要水防箇所
- ・タイムラインの効果
- ・災害時にトップがなすべきこと



その他、市長が避難勧告発令の目安とする「氾濫危険水位」など河川管理者が出す情報の活用を確認した上で、こうした情報を提供するまでの連絡を密に取り合うこと、水防上重要な区間について状況をリアルタイムで把握し、ホットラインで伝えること、時系列の氾濫シミュレーションを踏まえた避難判断の必要性を確認しました。

【首長からの主な意見】

- ・河川において弱部があるなら、現時点でここが弱い、いつまでに改修・補強するということを併せて教えてもらいたい。
- ・改修していくこと改善していくこと、日々の管理、プラス連携、連絡、情報の共有化を図ることが重要。
- ・タイムラインについて市の中で作成しているものを今日の資料をもとに見直し、協議して沿川市とも合わせていきたい。
- ・下流が破堤する時、おそらく市内は水没している段階である。直轄と県の管理を別けてもらっては意味がない。
- ・当市ではタイムラインをすでに作成し、それに基づき職員の待機、避難所開設、避難準備情報の発令を行っている。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
琵琶湖河川事務所調査課
〒520-2279
大津市黒津4-5-1
TEL 077-546-0867

